令和６年度　小国町中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和７年５月

小国町（山形県）

〇計画期間：令和６年４月～令和１１年３月（５年０月）

Ⅰ．中心市街地全体に係る評価

１．　令和６年度終了時点（令和７年３月 31 日時点）の中心市街地の概況

本町では、「暮らしを支える機能と活力を生み出す人が創造する新たな中心市街地」を目指す姿と定め、「暮らしやすい、安心して住み続けたいと思うまち」「賑わい、新たな活動・創造が生まれるまち」「訪れ、多様な世代が交わる（交流・行き交う）まち」の３つの方針に沿って、令和６年４月より認定基本計画が開始された。

目標 1 で定めた「まちに暮らす」の目標指標である「定住人口（人）」については、基準値を令和 2 年度の数値である 3,637 人に設定し、人口減少の推計率から目標値を 3,300 人と定めたところであるが、令和 6 年度末の数値が 3,089 人となった。これは、町内全体の人口減少が進行しており、中心市街地区域での進行も例外ではないことが見て取れる。目標 2 で定めた「まちを動かす」の目標指標である「起業者数（人）」については、基準値を令和 3 年度の 2 件と設定し、目標値を 5 年間で 18 件と定めているが、令和 6 年度は 1 件に止まった。これは、令和 4・5 年度に計 7 件の実績があったことから、対象年度の起業希望者が少なくなったと考えられる。目標 3 で定めた「まちを回遊する」の目標指標である「歩行者・自転車通行量（人／日）」については、令和 4 年度の通行量である 1,072 人と設定し、目標値を 1,200 人と定めたが、令和 6 年度は 1,418 人と、目標を達成した。しかし、増加の要因として考えられるのは、事業着手による効果というよりも、令和 4 年度は新型コロナウイルスがまだ 5 類に移行していないこと、当町では令和 4 年 8 月豪雨により甚大な被害が発生していたことなどの外的要因によるものと推測される。

計画初年度ということもあり、計画に掲載された 64 事業のうち、未着手の事業も半数近く存在している。各種目標の達成に向けて、計画に掲載された事業を着実に実施することが求められている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】　（基準日：毎年度３月３１日）

（中心市街地区域）	令和５年度（計画前年度）	令和６年度（１年目）	令和７年度（２年目）	令和８年度（３年目）	令和９年度（４年目）	令和１０年度（５年目）
人口	6,624	6,395				
人口増減数	▲229	▲229				
自然増減数	▲115	▲129				
社会増減数	▲114	▲100				
転入者数	158	176				

２．令和６年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和5年4月より、中心市街地の中核施設である白い森ショッピングセンターアスモ内に子育て支援センターを開設し、令和6年度には前年度比1.7倍の1,993人に利用されるなど、好評を得ている。昨年度に策定した子ども子育て支援計画の策定時のアンケートでは、休日に親子で遊べる遊び場、雨でも遊べる遊び場の要望が多かったため、今年度から月に1回、区域エリアに位置する健康管理センターに遊び場を提供している。本計画の中には、白い森ショッピングセンターアスモの施設リニューアルも盛り込まれていることから、中心市街地に子育て世代を集客できる施設機能を確保していただけるよう要望したい。

目標1で定めた目標指標である「定住人口（人）」については、既に目標値を下回っており、昨今の人口減少を踏まえると、適切な値に修正していく必要があると考える。一方で、計画1年目が終了したばかりであり、計画に掲載された事業のうち、未実施の事業も多いため、推移を見守りながら今後に期待したいところである。

Ⅱ．目標ごとのフォローアップ結果

１．目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※１	目標達成に関する見通し※２	
						前回の見通し	今回の見通し
まちに暮らす	定住人口（人）	3,637 人（R2）	3,300 人	3,089 人（R6）	C	―	C
まちを動かす	起業者数（人）	２件（R3）	18 件	1 件（R6）	C	―	A
まちを回遊する	歩行者・自転車通行量（人／日）	1,072 人（R4）	1,200 人	1,418 人（R6）	A	―	A

＜基準値からの改善状況（※１）＞
最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断
Ａ：目標達成、Ｂ：基準値より改善、Ｃ：基準値に及ばない

＜目標達成に関する見通しの分類（※２）＞
計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断
Ａ：目標達成が見込まれる
Ｂ：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる
Ｃ：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「＜基準値からの改善状況（※１）＞」、＜目標達成に関する見通しの分類（※２）＞ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：ａ、ｂ、ｃ）

２．目標達成見通しの理由

定住人口（人）については、令和 2 年度の中心市街地の人口から当時の減少率を推計して計画の目標値を設定したが、人口減少が著しく顕著となり、令和 6 年度末時点で既に目標値を下回る結果となった。今後、計画に記載された事業を着実に実施したとしても、目標達成及び基準値を上回ることは非常に厳しい環境にあるものと判断される。

起業者数（人）については、令和 6 年度の実績が 1 件と少なかったが、計画に記載された事業の半数がこれから予定されていることを踏まえて、着実に実績を積み重ねていけば目標達成は可能であると見込まれる。

歩行者・自転車通行量（人／日）については、既に目標値を達成している。また、計画に記載されている次期総合センター建設事業が進んでおり、総合センターの建設が完了すれば、歩行者・自転車通行量についても現在の数字を維持することが予想されるため、目標達成及び基準値を上回ることが見込まれると判断する。

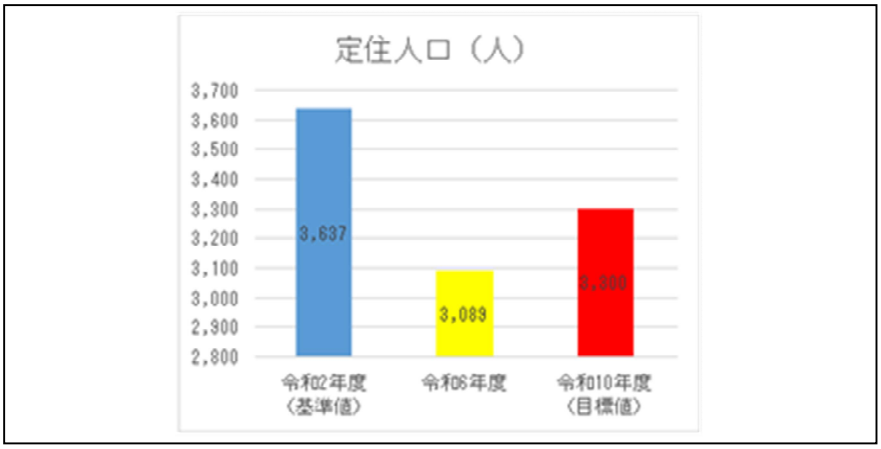
３．前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

今回が初回のフォローアップのため、特になし。

４．目標指標ごとのフォローアップ結果

（１）「定住人口（人）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 68～P. 70 参照

●調査結果と分析



年	（単位）
R2	3,637 人 （基準年値）
R6	3,089 人
R7	―
R8	―
R9	―
R10	3,300 人 （目標値）

※調査方法： 住民基本台帳
※調 査 月： 毎年度 3 月末日
※調査主体： 小国町
※調査対象： 中心市街地に居住する人口

〈分析内容〉

定住人口の目標達成に向けた全 22 事業のうち、実施に至っているのは半数の 11 事業のみで、人口を維持していくための効果的な事業の進捗が整っていない段階である。また、町内全体でも人口減少が進行し、想定を超える減少幅となっていることから、当初定めた目標値についての見直しも検討していく必要がある。なお、令和 7 年度に完成予定の次期総合センターの運用が開始されれば、新たな人の流入や定着も期待できると考えられるため、一定の数値に落ち着くと推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 公的賃貸住宅整備事業（小国町・民間事業者）

事業実施期間	令和８年度～【未】
事業概要	一定の所得層へ向けた公的賃貸住宅を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値･最新値及び進捗状況	［事業目標値］15 人
事業の今後について	令和 8 年度からの事業に向けて調整している。

②. 夏山冬里克雪住宅整備事業（小国町）

事業実施期間	令和７年度～【未】
事業概要	町が中心市街地における空き家等を活用し、雪への対応に不安を抱く周辺部の高齢者等が冬期間に中心市街地で生活できるよう住宅整備を進めるもの。また夏場は、移住希望者等の活用も進める。

国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府） 令和 7 年度～
事業目標値・最新値及び進捗状況	［事業目標値］5 人
事業の今後について	令和 7 年度の事業に向けて調整している。

③. 移住定住促進事業（小国町）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	移住支援金の交付、移住体験ツアーの実施等
国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府） 令和 8 年度～
事業目標値・最新値及び進捗状況	［事業目標値］1 人 ［最新値］0 人 令和 6 年度に首都圏で開催された移住者向けイベントや県が主催する移住イベントに出店し、移住者の募集を募ったが、本事業による移住者はいなかった。
事業の今後について	移住者向けイベントへの出店は継続しつつ、都市住民との交流促進や SNS を活用した地域の魅力発信を継続して実施することで、移住者の獲得につなげていく。

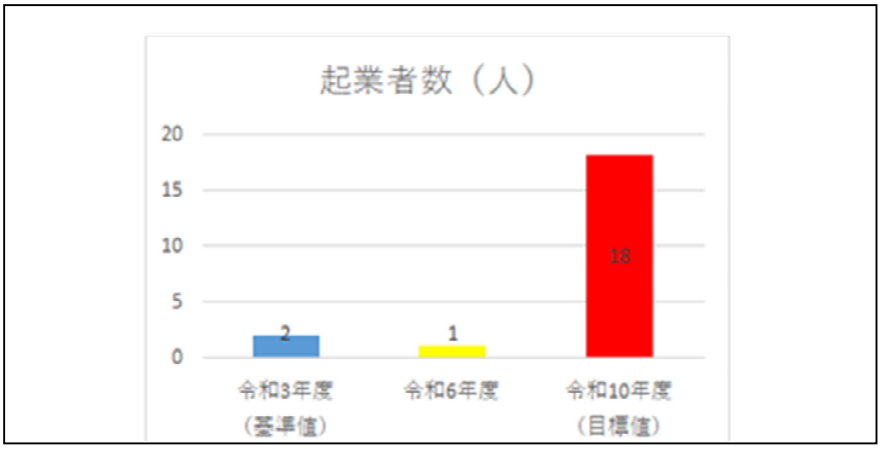
●目標達成の見通し及び今後の対策

計画初年度ということもあり、主要事業のうち、実施できたものは③移住定住促進事業のみである。そのため、実施できていない事業を次年度以降に着実に実施していき、事業効果を発揮させる必要がある。

その一方で、中心市街地のみならず、町内全体でも人口減少が著しく、現段階で目標値を達成する見込みは少ない。そのため、目標値の再検討を図りながら、事業の見直しや追加事業を検討していく。

（２）「起業者数（人）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 71～P. 72 参照

●調査結果と分析



年	（単位）
R3	2 件 （基準年値）
R6	1 件
R7	―
R8	―
R9	―
R10	18 件 （目標値）

※調査方法： 起業化資金助成金の利用者調べ
※調 査 月： 毎年度3月末日
※調査主体： 小国町
※調査対象： 中心市街地で起業した人数

〈分析内容〉

令和4年度に5名の起業者、令和5年度に2名の起業者がいたことで、それまで起業を検討してきた方が令和6年度には少なくなったと考えられる。なお、令和7年度は現時点で4名の起業希望者がいるため、引き続き事業を実施しながら注視していく。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 研修滞在空間活用事業（小国町、一般社団法人YOKAMOS）

事業実施期間	令和６年度～【実施中】
事業概要	一般社団法人YOKAMOSが、既存の酒蔵をコワーキングスペースとした「カモスク」をオープンしており、カモスクを拠点として研修滞在空間について、活用促進のためのソフト事業の支援を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	［事業目標値］0人　※起業希望者への業務スペース提供のため。 ［進捗状況］0人 令和6年度は「ビジネス創出塾」を開催し、起業のきっかけとなる地域資源を活用したビジネスプランの作成及びローカルビジネスプランの発掘を行った。なお、当該事業は場所の提供であるため、目標値は0人と設定している。
事業の今後について	一般社団法人YOKAMOSが提供するコワーキングスペースが利用できることを起業者向け事業や起業希望者へ説明していく。

②. ローカルビジネス創出事業（小国町）

事業実施期間	平成３０年度～【実施中】
事業概要	白い森まるごとブランド構想は、小国町の食や自然、文化等の地域資源をまるごとブランド化し、町の魅力を発信していく構想であり、地域資源を活用した新たなビジネスを後押しすることにより、意欲ある人材を増やしが町を動かしていくことにより中心市街地活性化にも寄与するものである。白い森まるごとブランド構想の具現化にむけ、意欲ある事業者等との連携により、文化や特産品を活用した新たな価値創造とビジネス化を目指してハンズオン支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和6年4月～令和11年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	［事業目標値］1人 ［進捗状況］0人

	当該事業の実施により、起業を検討した者はいたが、起業については令和 6 年度ではなく、令和 7 年度になる見込みである。
事業の今後について	事業を継続しながら、起業者への支援を行っていく。

③. 起業・創業支援事業（小国町）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	起業希望者を対象とした相談会を開催するとともに、起業に向けた資金を助成するもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和 6 年 4 月～令和 11 年 3 月
事業目標値･最新値及び進捗状況	［事業目標値］1 人 ［進捗状況］1 人 起業希望者を対象とした相談会を実施し、参加者のうち 1 名が起業することとなった。
事業の今後について	引き続き事業を継続しながら、起業者への支援を実施していく。

④. 事業承継促進事業（小国町商工会）

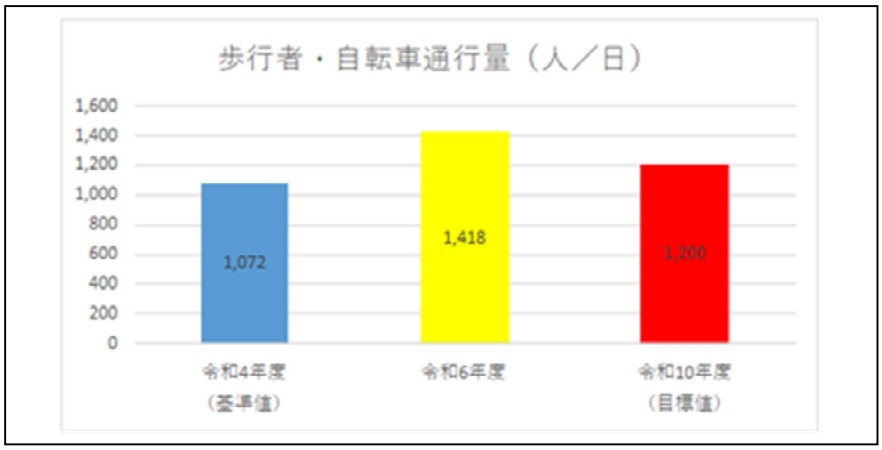
事業実施期間	令和 4 年度～【未】
事業概要	後継者のいない事業者等について、事業承継のためのマッチングを進める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値･最新値及び進捗状況	［事業目標値］1 人 ［進捗状況］0 人 小国町商工会との細かい調整ができず、実施できなかった。
事業の今後について	商工会と連携しながら、事業承継事業を引き続き実施していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

起業者数については、既に①研修滞在空間活用事業、②ローカルビジネス創出事業、③起業・創業支援事業を実施しており、計画前年度と前々年度に計 7 名の起業者がいたため、計画初年度の起業者が少なかったと考えられる。また、令和 7 年度には 4 名の起業予定者がいることから、未実施である④事業承継促進事業の確実な実施により、事業による十分な効果を発揮するものと推察される。

（３）「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 73～P. 75 参照

●調査結果と分析



年	（単位）
R4	1,072 人 （基準年値）
R6	1,418 人
R7	―
R8	―
R9	―
R10	1,200 人 （目標値）

※調査方法： 中心市街地（業務対象の約 160ha）の計 7 地点において、歩行者及び自転車の通行量調査

※調 査 月： 令和 6 年 10 月

※調査主体： 小国町

※調査対象： 学童（小学生以下）、中高生、一般、高齢者、自転車

（単位：人）

	令和４年度 （計画前年度）	令和６年度 （１年目）	令和７年度 （２年目）	令和８年度 （３年目）	令和９年度 （４年目）	令和１０年度 （５年目）
地点１	113	152	―	―	―	―
地点２	82	120	―	―	―	―
地点３	202	241	―	―	―	―
地点４	238	361	―	―	―	―

地点５	218	249	－	－	－	－
地点６	67	109	－	－	－	－
地点７	152	186	－	－	－	－
合計	1,072	1,418	―	―	―	―

〈分析内容〉

基準年度となる令和 4 年度と比較した際、1,418 人と目標を達成している。しかし、計画初年度ということで新しい事業を展開していないことから、増加の要因として考えられるのは、令和 4 年度は新型コロナウイルスがまだ 5 類に移行していないこと、当町では令和 4 年 8 月豪雨により甚大な被害が発生していたことで、人流が悪かったことによる外的要因があったものと推測され、事業着手による効果というよりも、令和 6 年度はこれらが緩和され、人流が戻ったことなどが主な要因だと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 次期総合センター活用事業（小国町）

事業実施期間	令和８年度～【未】
事業概要	ホール機能と図書機能を併せ持つ公共複合施設において、展示や各種講座などイベント等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値･最新値及び進捗状況	［事業目標値］324 人
事業の今後について	令和 8 年度からの事業に向けて調整している

②. 研修滞在空間活用事業（小国町、一般社団法人 YOKAMOS）

事業実施期間	令和６年度～【実施中】
事業概要	一般社団法人 YOKAMOS が、既存の酒蔵をコワーキングスペースとした「カモスク」をオープンしており、カモスクを拠点として研修滞在空間について、活用促進のためのソフト事業の支援を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値･最新値及び進捗状況	［事業目標値］15 人 ［進捗状況］15 人 一般社団法人 YOKAMOS が運営している宿泊施設については正常に稼働しており、コワーキングスペースのカモスクも含めた施設一体が一定の効果を生んでいると考えられる。
事業の今後について	引き続き一般社団法人 YOKAMOS と連携しながら、歩行者等の通行量を増やしていく。

③. 生涯スポーツ普及推進事業（NPO おぐにスポーツクラブ Yui、スポーツ協会）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	各世代を対象としたスポーツイベントや運動教室等を通じて、健康づくりと体力づくりを促進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和 6 年 4 月～令和 11 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	［事業目標値］30 人 ［進捗状況］24 人 屋内運動施設あいべの運動教室が年に 18 回あったことが、スポーツ公園での実施がなかったため、目標値を上回らなかった。
事業の今後について	屋内運動施設あいべでは定期的な教室を開催しているが、スポーツ公園では定期的な運動教室が開催されていないため、引き続き事業の実施を注視しながら効果を図っていく。

④. まちなか中核施設活用推進事業（小国町、（株）小国いきいき街づくり公社）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	ショッピングセンターアスモの空き空間の利活用を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和 6 年 4 月～令和 11 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	［事業目標値］46 人 ［進捗状況］53 人 ショッピングセンターアスモの空き空間に対して、にぎわい創出を図ることで、目標値を上回る結果となった。
事業の今後について	アスモの空き空間の利活用を図ることで、にぎわい創出に寄与していることから、引き続き事業を実施していく。

⑤. 文化的建築物保全活用事業（民間）

事業実施期間	令和 7 年度～【未】
事業概要	文化的建築物である旧電興社寮を調査し、保全と活用を図る。
国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府） 令和 7 年度～
事業目標値・最新値及び進捗状況	［事業目標値］17 人
事業の今後について	令和 8 年度からの事業に向けて調整している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者・自転車通行量については、実施している②研修滞在空間活用事業、③生涯スポーツ普及推進事業、④まちなか中核施設活用推進事業の効果が十分に発揮されており、目標値を達成している。今後予定されている①次期総合センター活用事業が開始されれば、さらなる交流が生まれることが見込まれており、目標値についても十分に達成できる見込みである。